

令和3年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立輪島高等学校 定時制

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果、課題、改善策等）
1 学ぶことによるこびの実感 [主担当] 学力向上G	① ICTを利活用した授業の展開	ICTの利活用により、意欲的に学習に取り組めたと感じた生徒が A：80%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	A (83.2%)	成 果： この数年でICTを活用した授業の数自体も増えてきており、アンケート結果からはICT機器が概ね効果的に活用できていることが窺われる。 課 題： 個々の授業においては、生徒の学習への適応度合いによってICTの有効性があまり発揮されていない場合もある。
	② 生徒の興味関心を高める授業の展開	授業に主体的に取り組んだ生徒が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満		A (77.4%)
2 社会人基礎力の向上	① 社会人として求められる挨拶・言葉遣い指導	人前で挨拶や発表する場面を経験できた生徒が A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：40%未満	C (40.0%)	成 果： コロナ禍のため、あまり学校行事や里山里海学習を実施することができず、挨拶する機会があまり持てなかった。 課 題： できる環境の下で、できるだけ挨拶する機会を持たせる。 改善策：あらゆる機会に時と場に応じた言動ができるように、長期的な展望を持って、今後も粘り強く指導を継続していく。

	〔主担当〕 キャリア教育 G	② 時間の自己管理意識を高める指導	全授業の出席率 80%以上の生徒が A : 70%以上 B : 50%以上 C : 30%以上 D : 30%未満	B (66.7%)	成果： 学級担任が、本人や家庭との連絡を密にして出席を促しているため、欠席が長期にわたる生徒の数が抑えられている。 課題： これまでの出席状況を鑑み、今後、進路指導で明確な目標を持たせ、欠席が連続しないようにする。 改善策： 欠時の多い生徒には、個人面談や保護者への連絡を適宜行い、生活面の改善や将来を展望する意識を高めていく。
		③ いじめを許さない姿勢の確立	自己有用感が高まったと感じた生徒が半数を超えた行事が A : 年10回以上 B : 8回以上 C : 年6回以上 D : 年5回以下	C (7回)	成果： コロナ禍のため、あまり学校行事を開催することができなかったが、少ないながらも周囲の人たちと協力しながら、自分自身の仕事を成就し、自己肯定感を持つようになった生徒がいた。 課題： 仲間と共感したり、自己存在感を体感したりする場面づくりを心がける。 改善策： できる限り、生徒の興味関心があるような行事を設定し、自己有用感を持たせる。
3	地域愛の育成 〔主担当〕 地域理解G	① ふるさと学習への積極的な参加	ふるさとに関する体験学習に積極的に取り組むことができた生徒が A : 90%以上 B : 70%以上 C : 50%以上 D : 50%未満	B (75.0%)	成果： 実施できた体験学習の機会は少なかったが、ほとんどの生徒が欠席すること無く、さらに趣旨を理解し積極的に参加した。 課題： 新型コロナウイルス感染拡大や悪天候の影響で、実施出来た体験学習が春の調理実習と千枚田の田植えボランティアの2回だけだった。
		② 協働的に活動する場面の設定	生徒が協働的に行った探究活動が A : 年10回以上 B : 年8回 C : 年6回 D : 年5回以下	D (2回)	前述のとおり、新型コロナウイルス感染拡大や悪天候の影響で実施できた活動が2回のみであった。今後は感染状況を見極めながら感染対策を徹底し、協働的な場面を設定するよう努める。